

技術フォーラム 『我が国IT産業の戦略を考える』

- 主催：電子材料・デバイス技術専門委員会
- 担当部署：知的基盤部
- 参加者数：約50名

概要

JEITAの電子材料・デバイス技術専門委員会（委員長：井上満夫氏／三菱電機㈱）では、IT・エレクトロニクス産業の今後の発展にとって重要な基盤技術の研究開発を促進することを目的の一つとして、電子材料、デバイス技術分野について各種調査を実施しております。委員会では、これらの活動の一環として毎年フォーラムを開催し広く一般に公開しています。今回は、日本のIT産業の現状や課題、新たな可能性を考察すべくフォーラムを開催しました。

講演では、最初に特許庁総務部企画調査課の伏本正典氏に、「知的財産立国に向けた新たな課題と対応」と題して、日本企業における知財動向の現状や日米欧中韓等の知財マネージメントの状況比較、知財活用の成功事例として現地化に向けた企業の取組みの紹介、また国際特許出願（PCT）の増加に伴い、グローバル知財マネージメントの支援に関する特許庁の取組みなどについてご紹介いただきました。

中央農業総合研究センターの長坂善禎氏からは、センサやネットワークの発達と低価格化により可能になった農業分野における技術開発の背景から、産学官の共同研究におけるGPSを利用した農作業ロボットの研究

事例や、すでに導入されているリモートセンシング技術を利用した活用事例などについてご紹介いただきました。

半導体産業研究所代表理事所長の福間雅夫氏からは、「スマート社会と半導体」と題し、エネルギー問題、食料確保、インフラの更新、安心／安全、高付加価値サービスなど、近年の社会的課題の解決こそが今後のスマート社会の使命であり、課題解決に向けてエレクトロニクスが取り組むべき技術研究開発の方向性、アプリ指向の必要性など、エレクトロニクス産業の将来についてご講演をいただきました。

最後に筑波大学の丹羽正昭先生より、CMOSの実用化に向けたIMECなどの海外半導体コンソーシアムでの研究開発活動に従事したご経験から、その長所、短所、人材育成の充実度などを国内体制との比較を交えてご講演をいただきました。

フォーラムは、電子材料・デバイス技術専門委員会幹事の金丸正剛氏（産業技術総合研究所）の司会・進行により、井上委員長の開会挨拶の後、以下の内容で進められました。



プログラム

○「知的財産立国に向けた新たな課題と対応」

伏本正典 氏（特許庁 総務部企画調査課 特許戦略企画調整官）

○「農業分野におけるIT、RTの技術開発」

長坂善禎 氏

（独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 作業技術研究領域 主任研究員）

○「スマート社会と半導体」

福間雅夫 氏（一般社団法人 半導体産業研究所 代表理事所長）

○「グローバル協業を活用した先端CMOS開発」

丹羽正昭 氏（筑波大学 大学院 数理物質科学研究科 教授）